

1. 日時：平成19年3月15日（木） 14：00～17：00

2. 場所：経済産業省 別館 513共用会議室

3. 出席者：14名／計15委員

委員：

神尾委員長、碓井、木股、小出、近藤、齋藤、下村、田村、西村、馬場、林、富永（矢萩委員代理）、和田、福永

説明者：

小黑（独）産業技術総合研究所）、栗山（独）産業技術総合研究所）、
角掛（日本重化学工業株）、小野（財）大阪科学技術センター）

傍聴者：

和田（JSA）

事務局：

江口、長野、川野

4. 議題：

（1）第20回非鉄金属技術専門委員会議事録案の確認

（2）日本工業規格の改正の審議

（1）H7003 水素吸蔵合金用語

（2）H7201 水素吸蔵合金の圧力-組成等温線（PCT線）の測定方法

（3）H7202 水素吸蔵合金の水素化速度試験方法

（4）H7203 水素吸蔵合金の繰返し水素ガス吸蔵・放出特性試験方法

（3）その他

（1）重点TC選定の検討

（2）非鉄金属技術分野における2007年版国際標準化アクションプラン（案）

5. 議事：

（1）第20回非鉄金属技術専門委員会議事録案の確認

事務局から資料1に基づく説明を行い、承認された。

（2）日本工業規格の改正の審議

（1）H7003 水素吸蔵合金用語

資料2に基づいて説明がなされた。委員から、活性化など〇〇化の用語の定義、プラト一圧の定義、ヒステリシスの説明グラフの縦軸名、圧力-組成等温線図の説明グラフの縦軸名について指摘があり、審議の結果、これらを適切に修正することとし承認された。

（2）H7201 水素吸蔵合金の圧力-組成等温線（PCT線）の測定方法

資料3に基づいて説明がなされた。委員から、「質量と水の比重とから」を「質量を水の比重で除して」と明確に記載すべきではないか、また、温度に関し、「計測」を用いているが、「測定」と記載とすべきではないかとの指摘があり、審議の結果、これらを適切に修正することとし承認された。

(3) H7202 水素吸蔵合金の水素化速度試験方法

資料4に基づいて説明がなされた。委員から、図1のバルブの図記号は塗りつぶした記載となっているが、他の規格の記載と同様の意味であれば塗りつぶすべきでない、また、式に関係した注記で「・・を無視してもよい。」との記載は、無視する変数が式にないと成立しないなどの指摘があり、審議の結果、これらを適切に修正することとし承認された。

(4) H7203 水素吸蔵合金の繰返し水素ガス吸蔵・放出特性試験方法

資料5に基づいて説明がなされた。委員から図3の横軸名称は、JIS H7201と同様にH/Mとすべきではないか、また、図5の縦軸の目盛数値1.2は原理上不要ではないかとの指摘があり、審議の結果、これらを適切に修正することとし承認された。

(3) その他

(1) 重点TC選定の検討

事務局から、重点TCの選定指針について説明し、非鉄金属技術分野における重点TCを検討した。その結果、IEC/TC90、ISO/TC79、ISO/TC183を重点TCとして選定することとなった。

この審議の過程において、委員から、次のような意見が述べられた。

- 日本の品質は世界トップクラスであり、標準を超越した、お得意様のニーズにあった材料を供給しており、経営層は国際標準化の必要性を感じていない。
- 幹事国をとりに行かない産業界の姿勢もよくないが、多くは国際標準化活動を運営する力量（人材、金）がないのが実状。
- 最近、中国や韓国の国際標準化への積極姿勢が目立ってきている。
- 国際標準化戦略目標（国際標準提案件数倍増・欧米並み幹事国引受数）を達成するためには、成功例・失敗例を経営層に説明し、如何にメリットがあるかを認識させ、国際標準の積極的でない団体・企業をその気にさせる必要がある。

(2) 非鉄金属技術分野における2007年版国際標準化アクションプラン（案）

事務局から、IEC/TC90、ISO/TC79、ISO/TC183を重点TC候補とした2007年版国際標準化アクションプラン（案）について説明し、承認された。

以上